

令和8年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

外国語活動・外国語

学年	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
3年	○日常に必要な英単語や表現が十分ではなく個人差がある。	○指導者がレベルに合った英語を使い、適切なスピードで話す。子どもが理解できる英語をたくさん提供する。 ○歌や絵本を取り入れ、変化をもたせ、楽しみながら音声や表現に触れさせる。	
4年	○主体的なコミュニケーションを図ることに、関して個人差がある。	○シンプルな教室英語を使い、自信や学習意欲につなげる。 ○言語活動の手順を説明する際、分かりやすく全員が理解できるような工夫をする。	
5年	○日常で使用する簡単な単語や表現が十分ではない。 ○やりとりなどで、文章で答えることが厳しい。	○子どもが日本語で答えた場合でもそれを英語で言い換えて、子どもが理解できる英語をたくさん提供する。 指導者が日本語（母国語）を効果的に活用し、英語と日本語の使い分けを適切に行う。 ○歌やチャンツで音声に触れさせ、文章の定着を図る。	
6年	○外国語を聞いたり話したりすることの経験や能力に個人差が大きい。 ○知らないことを嫌がる。	○何度も練習したくなる工夫として、インフォメーションギャップ（子ども同士で話す場合、興味や関心、経験の違い）を取り入れることにより相手が知らない情報を伝え合う。 ○主体性をもてるよう、子ども自身に関係がある題材にし、意欲を高め、記憶に残りやすくする。	